

令和5年度 浜松市立曳馬中学校 学校評価報告書

I 令和5年度の方針・目標

○基本方針（中長期ビジョンを含む）	○学校教育目標【夢と希望と勇気を持って生きる生徒の育成】
1. 自他の命を大切に作る人づくりを推進する。 2. 発達支援教育の理念を根幹に据えた教育活動の展開。 3. 情報活用能力等、これからの社会を生き抜くための資質・能力を育む生徒の育成する。 4. 学ぶことの意義を理解させ、学習の基礎・基本の定着と深化充実を図る。 5. 人間としてよりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。 6. 望ましい生活習慣を身に付けさせるとともに、 気力・体力・忍耐力等を育むことを目的とする「健康教育」を推進する。 7. コミュニティ・スクールの充実等、家庭や地域とともにある学校づくりを推進する。 8. 曳馬小・上島小との連携を深め、9年間の学びと育ちをつなぐ小中一貫教育を推進する。	○学校経営目標【自分らしさを大切に、よりよい集団づくりに取り組む生徒の育成】 ～「自律」「共生」～ 多様な人と共生しながら、人間関係の基礎や社会的ルールを学び、子供たちがたくましく自律して生きていく生徒を育成していく 1. 自律的に生きていく力 ・自分らしさを大切にしながら自分の意志をしっかりと持つことができる。 ・自ら定めたルールに従って行動を選択することができる。 ・自分のことを大切にしながらも、まわりの人のことを考えて生活することができる。 2. 社会の中で共に生きていく力 ・自分とはちがう体や心の特性、考え方をもつ人を認めることができる。 ・お互いを分かり合うために話をしたり、支え合ったりしながら生活していくことができる。 ・積極的にお互いを理解し、助け合う中で生き生きと自分の能力を発揮することができる。

II 自己評価

○生徒の評価

①先生は、基礎的な学力が身に付くような分かりやすい授業をしている。	93
②先生は、興味や意欲を高める授業を工夫している。	87
③先生は、それぞれの生徒の特徴に応じた学習の手助けを行っている。	82
④私は、学級活動・生徒会活動・学校行事に積極的に取り組んでいる。	81
⑤私は、部活動（校外活動）に積極的に取り組んでいる。	81
⑥私は、学校生活において、規律のある行動を心掛けている。	90
⑦先生は、間違った行動に対して適切に指導している。	90
⑧先生は、生徒一人ひとりを理解し、大切にしている。	86
⑨先生は、いじめのない集団づくりに取り組んでいる。	85
⑩先生は、将来の進路や職業などについて適切に指導している。	83
⑪学校は、三者面談や教育相談等が充実し、相談がしやすい。	72
⑫私は、地域の活動やボランティア活動に積極的に参加している。	41
⑬私は、学校だよりや学年だよりなどの配付物は家の人に確実に渡している。	76
⑭学校は、私たちの安全確保や健康管理のための取組を十分行っている。	91
⑮私は、曳馬中学校の生徒であることに誇りをもっている。	81
⑯私は、進んで誰にでも挨拶ができる。	82

※数字の単位は％

○保護者の評価

①学校は、基礎的な学力が身に付くような分かりやすい授業をしている。	74
②学校は、興味や意欲を高める授業を工夫している。	66
③学校は、それぞれの生徒の特徴に応じた学習の手助けを行っている。	55
④子供は、学級活動・生徒会活動・学校行事に積極的に取り組んでいる。	84
⑤子供は、部活動（校外活動）に積極的に取り組んでいる。	84
⑥子供は、学校生活において、規律のある行動を心掛けている。	89
⑦学校は、子供の間違った行動に対して適切に指導している。	82
⑧学校は、生徒一人ひとりを理解し、大切にしている。	76
⑨学校は、いじめのない集団づくりに取り組んでいる。	73
⑩学校は、将来の進路や職業などについて適切に指導している。	71
⑪学校は、三者面談や教育相談等が充実し、相談がしやすい。	79
⑫学校は、家庭・地域と積極的に連携・協力している。	75
⑬学校は、便りやホームページ、その他の方法で情報を発信している。	91
⑭学校は、子供の安全確保や健康管理のための取組を十分行っている。	85
⑮子供は、曳馬中学校の生徒であることに誇りをもっている。	72
⑯子供は、進んで誰にでも挨拶ができる。	73

※数字の単位は％

III分析考察や改善策等

- 全体的にみると「生徒の評価と比べて保護者の評価が低くなっている項目が多い」については、生徒から保護者に伝わっていない部分もあるが、学校から保護者への伝達が不十分な可能性がある。学校ブログや各種便りをより工夫していく。
- 「生徒の特徴に応じた学習の手助け」や「興味や意欲を高める授業の工夫」については、授業において、個に応じてタブレット等のICTを有効活用したり、学習形態を実態に合わせて工夫したりする。また、対話的で深い学びによる授業や振り返りを実施することで、学習に興味を持たせて学習意欲の向上を図るようにする。
- 「地域の活動やボランティア活動に参加している。」については、今年度よりボランティアの募集も増えてきて、参加する生徒も増えてきてはいる。資源物回収には多くの生徒が参加しているが、地域の活動だと思っていない生徒もいる可能性もある。また、ボランティア活動に参加したいが、部活との兼ね合いで参加できない場合もある。以上のような状況もあるが、学校からの声掛け等の啓発については、今後も継続していき、地域とともに子供たちの成長を支えていくようにしたい。
- 「いじめ防止等に関わる内容」については、保護者の肯定的な意見は7割以上、生徒については約9割の生徒が肯定的な回答という高い数字ではあった。しかし、生徒だけでなく保護者の方々にも安心できるよう、学校の様々な取り組みの様子を保護者に伝えていくようにする。
- 「三者面談や教育相談等が充実し、相談がしやすい」については、学校（教師）側が作っていく。生徒への関わり方について、相談しやすい雰囲気を作っていく。普段から生徒への声掛けや目配りを今まで以上に行っていく。

IV 学校運営協議会による学校関係者評価

- 令和6年2月16日（金）に開催した学校運営協議会において学校評価についての結果、分析考察や改善方策について委員に報告。委員からは以下のような意見があった。
- 生徒や保護者アンケートには、肯定的な意見の項目が多かった。特に保護者の評価項目の中でも91%があった様に、学校からの情報を知ることを求めている。各種便りを工夫したり、面談等でコミュニケーションをより積極的にとったりするなど、正確な情報を流した方がいい。
- 曳馬協働センターの行事には、大変多くの生徒がボランティア活動に参加していただいたが、その他の地域のボランティア活動に、もう少し参加・協力できるようになってほしい。
- 今年度の基本的な熟議は来年度も継続して、課題についても解決に向けて継続を実施お願いしたいです。

V 今後の改善方策等

- 学校関係者評価を基に、以下の点を中心に改善を図っていく。
- 全体的にみて保護者の評価が低くなっている項目が多い」ということについては、学校から保護者への伝達が不十分な可能性があるため、学校ブログや各種便りはもちろん、三者面談や普段の連絡等のコミュニケーションをより積極的に行っていく等、保護者の認識を高める工夫を行っていく。
- 「生徒の特徴に応じた学習の手助け」や「興味や意欲を高める授業の工夫」について、個に応じてタブレット等のICTを有効活用したり、学習形態を実態に合わせて工夫したりするために、校内研修を充実させていく。
- 「三者面談や教育相談等が充実し、相談がしやすい」について、生徒への関わり方について、相談しやすい雰囲気を作っていくために、普段から生徒への声掛けや目配りを今まで以上に行っていく。